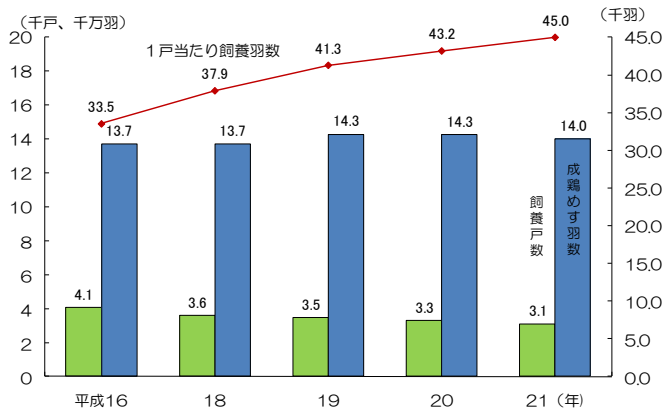


鶏卵



◆飼養動向 21年2月の採卵鶏の飼養羽数は1億4千万羽(▲1.8%)と緩やかな減少
 (世界農林業センサスの調査年はデータなし)

図1 採卵鶏の飼養戸数、成鶏めす羽数



資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」

注

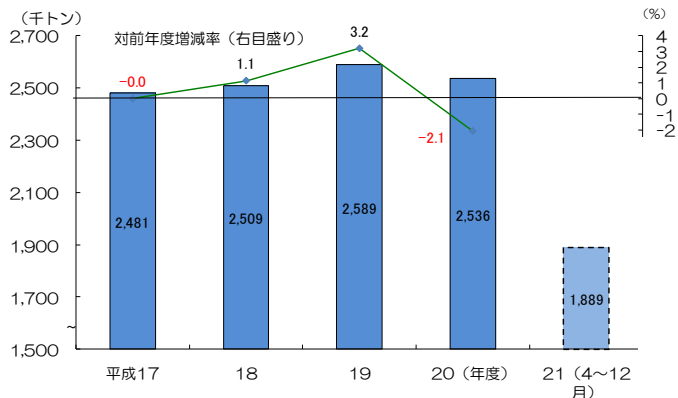
- 1：数値は各年の2月1日現在
- 2：成鶏めすとは種鶏を除く6カ月以上のめすをいう。
- 3：飼養戸数は、種鶏およびひな(6カ月未満)のみの飼養者および成鶏めす羽数1千羽数未満の飼養者を除く。
- 4：17年及び22年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

21年2月現在の採卵鶏の飼養戸数は、3,110戸で前年より190戸(▲5.8%)減少した。また成鶏めす羽数については、年々減少傾向にあり、21年は1億4千万羽(▲1.8%)と減少した。一方、1戸当たりの成鶏めす羽数は10万羽以上の規模の飼養羽数が増加していることから、21年は45.0千羽(4.1%)と約1.8千羽増加した(図1)。

◆生産

21年度(4~12月)の生産量は188万9千トン(21年度データは未公表)

図2 鶏卵の生産量



世界的に鳥インフルエンザが猛威をふるう中、国内でも鳥インフルエンザ発生が影響し、鶏卵生産量は、一時的に低下した。しかし17年度以降回復に向かい、19年度は258万7千トン(3.1%)とピークに達した。しかし、卸売価格が下落したことから、20年度は253万2千トン(▲2.1%)となった。

21年度(4~12月)は前年度をわずかに下回る188万9千トンとなった(図2)。

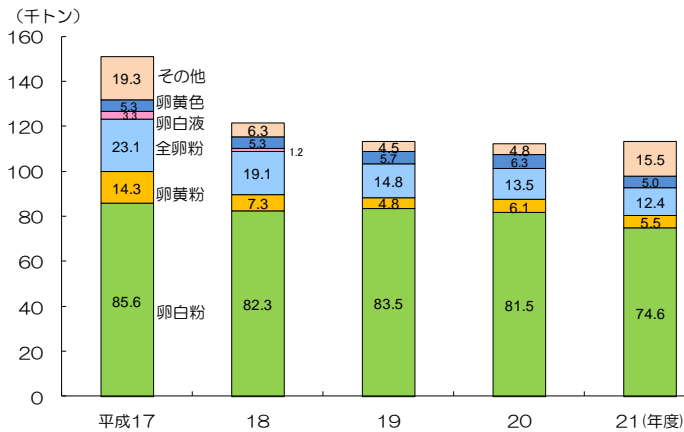
資料：農林水産省「鶏卵流通統計」

注：21年度のデータは23年2月現在未公表

◆ 輸 入

21年度の輸入量(殻付き換算ベース)は、10万815トン(▲10.1%)と減少

図3 鶏卵の輸入量



資料：財務省「貿易統計」
注：殻付き換算ベース

鶏卵の輸入量(殻付き換算ベース)は通常、国内需要量の3~5%程度を占めるが、国内の生産量、価格動向、円相場などの影響を受けて変動する。

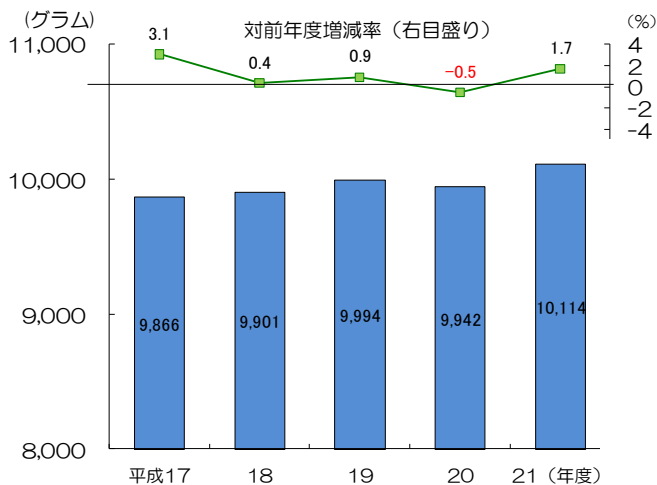
20年度は輸入品に対する安全面での警戒感などが影響し112,198トン(▲1.0%)とわずかに減少した。

21年度は前年度に比較して卸売価格が安価で推移したことなどから国産品への需要が高まり、100,815トン(▲10.1%)と減少した(図3)。主な輸入先はオランダ、米国、メキシコなどであった。

◆ 消 費

21年度の家計消費量(1人当たり)は、10,114グラム(1.7%)と増加に転じる

図4 鶏卵の家計消費量(1人当たり)



資料：総務省「家計調査報告」

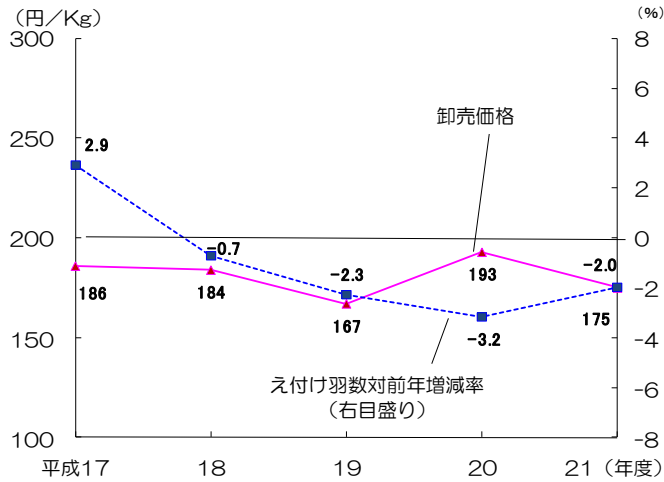
1人当たりの家計消費量は、16年度以降10キログラムを切って推移、20年度は卵価が上昇したことなどもあり9,942グラム(▲0.5%)となった。

21年度は卵価が前年度を下回ったことや、厳しい経済情勢の下、より安価な畜産物への需要が高まったことにより、10,114グラム(1.7%)と前年度を上回り、6年ぶりに10キログラムを超えた(図4)。

◆卸売価格

21年度の卸売価格(東京・M)は、キログラム当たり175円(▲9.3%)と前年度を下回る

図5 鶏卵の卸売価格(東京M)とひなのえ付け羽数



資料：農林水産省「鶏ひなふ化羽数」(21年12月まで)
 日本種鶏卵協会「種鶏卵統計」(22年1月以降)
 農林水産省「鶏卵市場流通統計」(8年12月まで)
 農林水産省「鶏卵流通統計」(9年1月以降)

鶏卵は自給率が約95%と高いため、卸売価格は、生産量の変動が大きく影響する傾向にある。鶏卵の卸売価格の動き(対前年度増減率)を見ると、昭和55年度、60年度、平成2年度、8年度、11年度、16年度とほぼ5年周期でピークを迎えている。この周期的変動には、ひなえ付け羽数が大きく影響している。高卵価に刺激され、え付け羽数が増加すると、生産量が増加し、卵価の低落を招いている。

20年度の鶏卵卸売価格は193円(15.3%)(東京・Mサイズ、キログラム当たり)と、減羽などに努め高水準で推移した16年度の205円に次ぐ高値となった。

21年度は175円(▲9.3%)と前年度を下回った。経済情勢が厳しい中、卵価が軟調に推移したため、卵価安定基金※から多額の価格差補てん金が交付され、卵価安定基金の財源は15年度以来、6年ぶりに払底した(図5)。

※(社)全国鶏卵価格安定基金および(社)全日本卵価安定基金に置かれる基金のこと。